

TA-058 に関する臨床的検討

柴田 弘俊・窪田 良次・田中 輝和・植田 高彰

田窪 孝行・中村 博行・正岡 徹

大阪府立成人病センター内科

新しい合成ペニシリン剤 TA-058 を用いて、主として血液疾患に合併した重症感染症 8 例について臨床的検討を行った。

TA-058 の 1 日投与量は 4～8 g で、著効 1 例、有効 1 例、無効 5 例、判定不能 1 例であった。

なお、本剤によると思われる副作用は認められなかった。

はじめに

TA-058 は側鎖にアミノ酸残基を導入した半合成のアモキシシリン誘導体である¹⁾。その特徴は、グラム陰性菌および陽性菌に有効な広範囲のスペクトラムを有し、作用は殺菌的である。また、*in vitro*における活性が *in vivo*においても十分に発現されることが動物実験で示されている²⁾。本剤を用いて血液疾患に合併した重症感染症の治療を行った結果を報告する。

対象および投与方法

血液疾患に合併した重症感染症 8 例に本剤を投与した。基礎疾患は、急性白血病 4 例、悪性リンパ腫 2 例、慢性骨髄性白血病 2 例の計 8 例である。感染症の内訳は菌血症 1 例、菌血症疑い 3 例、肺炎 1 例、感染源不明の発熱例 3 例である。

本剤の投与はソリタ T 3 号 200 ml に本剤を 2～4 g

を溶解し 2 時間の点滴静注とした。投与回数は 2～3 回日であり、投与期間は 3～8 日間であった。

臨床成績

効果判定は投与後の解熱傾向で判定した³⁾。有効例は 8 例中 2 例であった (Table 1)。

症例 1 AML 寛解導入前に合併していた肺炎に対して本剤 6 g を 1 日 3 回に分割投与し、4 日後に解熱がみられ、5 日後に肺陰影の消失をみた。喀痰より *Acinetobacter* を検出した (Fig. 1, Photo 1)。

症例 7 AML の寛解導入療法中好中球が 20/mm³に減少した時期に発熱し、血液培養陰性であったが菌血症が疑われた。本剤 8 g を 1 日 2 回分割投与したところ 2 日後に解熱した。他の 6 例においては解熱効果がみとめられなかった。本剤投与中の副作用としては特記すべきものはなかった。

Table 1 Clinical result of TA-058 treatment

Case No.	Age Sex	Underlying disease	Diagnosis	Causative organisms	Dose (g/day)	Effect	Side effect
1	46. m	AML	Pneumonia	<i>Acinetobacter</i>	2g×3	卅	—
2	31. f	ATL	Sepsis	<i>S. pneumoniae</i>	3g×2	—	—
3	16. m	ALL	FUO	<i>K. pneumoniae</i> (?)	3g×3	—	—
4	38. m	L. S.	FUO	(?)	2g×2	*	—
5	53. m	CML in BC	Sepsis(?)	(?)	3g×2	—	—
6	39. m	CML	FUO	<i>K. pneumoniae</i>	3g×2	—	GOT, GPT increase
7	39. m	AML	FUO	(?)	4g×2	卅	—
8	39. m	ALL	FUO	(?)	4g×2	—	—

* undecided

Fig. 1

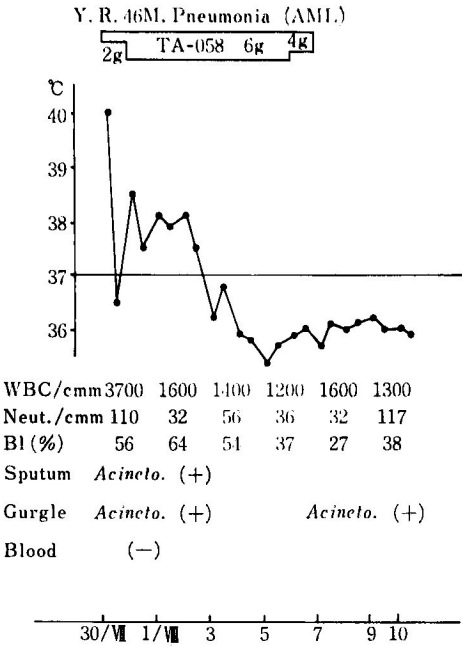


Photo 1 Roentgenogram of case 1



pre-administration



post-administration

臨症検査成績および副作用

対象疾患が主として血液疾患を有するものであるため、すでに何らかの基礎疾患に対する治療を受けている。このために中には GOT, GPT 等が高値を示すものがあつたが、本剤使用後に GOT, GPT の異常値を示したものは1例のみであつた(症例6)。本例の場合、投与5日後にニトロソウレア剤を投与しているため、CMLの化学療法によるものと思われるが、本剤との因果関係は不明である。その他発疹などのアレルギー症状を呈したものはなかつた。

考 案

本剤による治療の有効率は% (25%) と芳ばしいものではないが、ほとんどの症例において好中球の著明に減少した時期のいわゆる重症感染症が対象であつたこと、

本剤の副作用が軽度である点を考慮に入れば、重症感染症に対しては本剤の大量投与により治療効果の向上の可能性があると考えられる。

文 献

- 1) WAGATSUMA, M.; M. SETO, T. MIYAGISHIMA, M. KAWAZU, T. YAMAGUCHI & S. OHSHIMA: Synthesis and antibacterial activity of asparagine derivatives of aminobenzylpenicillin. J. Antibiotics 36(2): 147~154(1983)
- 2) 第30回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム III, TA-058, 1982 (東京)
- 3) 柴田弘俊, 正岡 徹: Cefmenoxime (SCE-1365) に関する臨床的検討. Chemotherapy 29 (S-1): 508~510, 1981

CLINICAL STUDY OF TA-058

HIROTOSHI SHIBATA, RYOJI KUBOTA, TERUKAZU TANAKA,
TAKAAKI UEDA, TAKAYUKI TAKUBO, HIROYUKI NAKAMURA
and TORU MASAOKA

Department of Internal Medicine,
The Center for Adult Diseases in Osaka

TA-058, new semisynthetic penicillin, was administered to 8 severe infections cases suffering from malignant neoplasms of the hematopoietic organs.

Daily doses of TA-058 was 4 to 8 grams, and clinical efficacy was excellent in 1 case, good in 1 case, poor in 5 cases and undecided in 1 case.

No serious side effects were observed.